

岡山県

せいきよう連 会報

2015年

新年号

CONTENTS

- 1 会長理事
- 2 岡山県知事
- 3 岡山県議会議長
- 4~8 各界の方々
- 9~11 副知事、議員、行政担当部署と懇談し
情報提供や意見交換を行いました。
- 12 協同組合間の連携
- 13~14 会員生協の組合員、役員・職員が
交流し、学びました。
- 15~16 岡山県消団連、NPO消費者ネットおかやまとともに
- 17~19 会員生協トピックス
- 20~22 会員生協紹介
- 23 岡山県生協連紹介



新年のごあいさつ

年始あいさつ



岡山県生活協同組合連合会
会長理事

近藤 清志

新年あけましておめでとうございます。

会員みなさまにおかれましては、組合員のくらしと健康、いのちを守り、生活文化や福祉の向上にむけてご奮闘されていますことに心より敬意を表します。

東日本大震災から4年近くになりました。昨年は県生協連として、宮城県へ復興の状況や現在の課題について研修にお伺いしました。住まいの問題やコミュニティの崩壊、水産業の販路の喪失と回復の遅れ、人口流失問題等についてお話を聞きました。特に応急仮設住宅にまだまだたくさんの方たちが住まわれており、公営災害住宅の建設の大幅な遅れもあり、住まいの問題は大変深刻であること、生活再建にとって住まいの再建が前提であり、生活再建支援制度の拡充が必要であることを痛感致しました。

私たちのくらしをめぐって、景気回復の動きがあるものの、消費税増税、円安による原材料の高騰による公共料金や食料品の値上げが続く、物価上昇に賃金の引き上げが追いついていない状況が続いています。

さらに円安の影響により、この1月からは食

品で1000品目の値上げが予定されており、家計をさらに直撃することは避けられず、生活防衛が益々進むことが考えられます。

医療介護総合推進法の成立により、各市町村で新しい地域支援事業が行われることとなりますが、それにとまって岡山市、倉敷市、玉野市との懇談を実施しました。生協が行っている様々な事業や活動について、連携して取り組むことが必要です。

少子高齢化社会の進展、高齢者の孤立化やコミュニティの崩壊など、だれもが住み慣れたまちで安心して暮らすことができる地域社会の実現は共通の願いであり、地域包括ケアシステムの構築が重要となります。生協が地域社会づくりへの参加をきっかけ、行政や他団体との連携を作り上げていくことをさらに強めていきたいと思っております。

消費者行政の分野では、課徴金制度の導入など景品表示法の一部改正や見守り組織の構築を進める消費者安全法の改正が行われました。急激な少子高齢化社会の進展、単身高齢者の増加など、今後も消費者被害として狙われる危険が高く、安心安全を支えるネットワークの構築は不可欠であり、生協組織もその一翼を担うことが求められています。

行政や地域諸団体みなさまには、今年も変わらぬご指導、ご支援を賜りますことをお願い致します。

最後になりますが、皆様にとりまして、この1年がすばらしい年となりますことを祈念致します。

全ての県民が明るい笑顔で暮らす 「生き生き岡山」を目指して



岡山県知事 **伊原 隆太**

新年あけましておめでとうございます。

年頭に当たり、岡山県生活協同組合連合会の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年は、私が目指す「生き生き岡山」を実現するため、「教育県岡山の復活」「地域を支える産業の振興」「安心して豊かさが実感できる地域の創造」の3つを重点戦略とする「晴れの国おかやま生き生きプラン」をスタートさせ、このプランに基づき施策を着実に推進してまいりました。

危機的な状況にある教育の再生については、その第一歩となる落ち着いた学習できる環境を整えるため、暴力行為対策や非行防止を図る学校警察連絡室を県警本部に設置するなど、再生に向けた取り組みを関係機関や地域住民との連携を強化しながら、多角的に進めているところです。

また、産業の振興については、玉島ハーバーアイランドに3社の連携により食料コンビナートの形成を目指す企業立地が実現するなど、岡山県の優れた操業環境や発展可能性が高く評価され、平成26年度に誘致した企業の投資総額が過去15年間で最高に達しました。

今年、岡山県発展のための礎となるこの2つの最重要課題について、引き続き、着実

に取り組むことで、医療・福祉サービスの充実など安心して豊かさが実感できる地域づくりへもつながる好循環を生み出してまいります。そして、喫緊の課題となっている人口減少問題については、将来にわたり本県の活力が維持できるよう、少子化対策はもとより、産業振興や雇用対策など講ずべき対策の方向性をとりまとめ、実効性のある施策を強力に推進してまいります。

今年11月には、岡山の魅力を多くの方に知ってもらうことができる第1回おかやまマラソンが開催されます。県民・市民の皆様がランナー、観客、ボランティアなどさまざまな形で参加し、一緒に盛り上がる大会を目指すと同時に、県外からの参加者には、「晴れの国おかやま」を体感していただけるよう準備を進めてまいります。併せて、昨年、東京・新橋にオープンした首都圏アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」を中心に、岡山の良さを全国に向け強力に発信してまいります。

引き続き、県政の基本目標である全ての県民が明るい笑顔で暮らすことのできる「生き生き岡山」の実現に向け、さらなるチャレンジを続け、これまで以上にスピード感を持って全力で取り組み、県民の皆様が住んでいてよかったと実感できる岡山県を築いてまいりますので、皆様には、一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

新年のごあいさつ

岡山県議会議長・会派代表のみなさま

岡山県議会議長

小田圭一



平成27年の年頭に当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

岡山県生活協同組合連合会の皆様には、新春を清々しくお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

皆様には、日頃から、県民生活の安定と生活文化の向上に多大なご尽力を賜っているとおりであり、心より敬意と感謝の意を表します。

私ども岡山県議会は、住民に身近な県議会を目指し、公明正大な議会運営にあっております。また、行政に対するチェック機能を果たすとともに、県政における最終的な意思決定機関としての役割を担い、県民福祉の向上と県勢の発展のため邁進しているところでもあります。

さて、昨年は、高円宮典子女王殿下のご結婚など慶事がございましたものの、長野県の御嶽山噴火、長野県北部の地震、広島県における豪雨土砂災害など自然災害が発生し、多くの方が被害に遭われました。被災された皆様にお見舞い申し上げます。また、一日も早い復旧を心から祈念申し上げます。県内では、「晴れの国おかやま生き活きプラン」の制定、岡山市でESDに関するユネスコ世界会議の開催、そして、東京での岡山初のアンテナショップ開設と今後の岡山県の発展に繋がっていく事業がスタートしました。

また、政府において「元気で豊かな地方

の創生」と「女性が輝く社会の実現」を大きな課題としており、地方の活力が求められております。本県もこうした機運を生かし、大きく発展していかなければなりません。

こうした中、県政の取り組むべき課題は、景気・雇用対策、財政再建、都市再生、環境対策、教育や福祉・医療の改革など多岐にわたります。県議会といたしましては、この様な課題を見据え、県民福祉の向上に取り組むとともに、積極果敢にチャレンジできる岡山県政を切り開いてまいります。

私の尊敬する岡山の偉大な人物に、江戸末期に活躍した備中松山藩の政治家であり、儒学者である山田方谷がおります。方谷は藩政改革を断行し、10万両の負債を抱えた備中松山藩を立て直した人物であります。ある時、方谷は弟子に「至誠惻怛」という言葉を贈っております。まごころ(至誠)と、いたみ悲しむ心(惻怛)があれば、やさしく(仁)なり、物事が上手く進みます。誠心誠意、公平な目で相手に接することの大切さを説いたものでありますが、私も議長として、この精神に習い全身全霊で職にあたってまいります。

結びに、新しい年が、皆様にとりまして実りの多い一年となりますよう、併せて皆様のご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。



民主・県民クラブ
団長

三原誠介

県生協連の活動深化に感謝

皆さまの活動により県民の生活を安心して豊かにしようと、組織を上げて様々な取り組みがされていることに感謝申し上げます。

昨年も生協連合会の役員さんとの懇談会に、11月に参加させて頂きました。岡山県では、産業振興、教育再生を中心課題として、地域の特性を生かして各生活圏の維持向上を図りつつ、若者世代の定着を目指そうとしています。

皆様にお世話になっている生活・医療・介護難民の課題については、全ての市町村への行政訪問と行政連携が摸索されており頭がさがります。

中山間地域だけでなく都市部周辺でも、生活に身近な公共交通路線の空白地域が広がり、全県的に広がる組織を生かして、たゆまぬ努力と摸索が展開されていることに話題が集中しました。生協として、そうした課題に積極的に関わり、食料の配達業

務はもちろんのこと、給食宅配にも尽力をされていること、更には、各市町村との包括連携協定、災害時物資協定、見守り活動協定等、行政との連携で、地域コミュニティを対象とする今後の活動が深化・発展する期待を込めて意見交換できました。

県民満足度調査によると、県北、中山間地の皆様の満足度が厳しい状況は続いており、県としても、人口減少をくい止め地域振興は待たなしの行政課題となっています。各市町村でも、様々なコミュニティバスなどの運行が試行されており、皆様と県が積極的に関わっていくことが重要であります。高齢化・少子化の社会は加速しており、皆様と住民の連携を強め行政責任を果たすことで、自分たちで自立できる仕組み作りを求めているかねばなりません。

今年も、関係者の連携により安心して豊かな生活を共に創造して参りましょう。



公明党 岡山県議団
議員団長

景山貢明

新年明けましておめでとうございます。

本年の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。さて私ども公明党は、昨年末結党50年を迎え、本年で第2の50年のスタートをきった訳であります。広く国民の皆さまへ御礼を申し上げますとともに決意、お約束を以下申し上げます。50年前の結党時は、高度成長期の真っ只中(1964年(昭和39)11月17日)で、かつ、東西冷戦という厳しい状況にありました。国民が頼るべき政治は、左右イデオロギーの対立が続き、高度成長に伴う様となり社会問題が噴出し、対応しきれなかったと思います。そうした時代背景のなかで多様な要望を受け止める政治的存在として公明党が誕生したと言

えるのではないかと考えています。当時の課題は子育てや住宅難、都市部に多発した公害問題などでした。そこからの懸案に取り組むとともに、清潔な政治姿勢を貫き、政治腐敗・金権体質を糾弾し、国民とともに、国民の中で互いに意識啓発に努めてまいりました。そして、現在、昨年末の総選挙結果をふまえ、油断なく私どもも国民の皆様のため前進してまいります。とりわけ、消費税率引き上げに対する不安解消のために、生活必需品に対する軽減税率の仕組みを取り入れてまいります。国民の8割の人々がこの制度を支持しているのはそうした理由があるからだと思えます。どうぞ皆様の一層のご理解を望むや切であります。本年もどうぞよろしくご挨拶申し上げます。

新年のごあいさつ

岡山県議会会派代表のみなさま



日本共産党県議団
議員団長

森 脇 久 紀

新年あけましておめでとうございます

岡山県生活協同組合連合会の皆様方には、行政にはできないきめ細かな住民サービスの担い手として、くらしと健康、福祉の向上など様々な分野でご活躍されておられますことに心から敬意を表します。

昨年急な解散総選挙となり、慌しい年の瀬を過ごすこととなりました。消費税増税、社会保障改悪、原発推進、TPP推進、労働法制の規制緩和、「政治と金」問題、特定秘密保護法の施行、集団的自衛権行使容認など、国民の不安要因や解決しなければならない課題が山積

しています。日本共産党は今後も、日本の平和と国民のくらしにとって、悪い政治には断固反対、「改革ビジョン」を示し、国民の皆さんとの共同をさらに大きく広げながら全力でがんばります。

いま「自治体消滅」などと言われる一方で、「過疎」と言われた田舎で定住人口が増加する地域が生まれていることに注目が集まっています。過疎と過密をつくり出した「大規模・集中」は、「無縁社会」と呼ばれるように、人だけでなく自然や伝統とのつながりも希薄なものにしてしまっています。地域ごとの自然と伝統、暮らし、人々の生きたつながりがあり、それぞれの地域が互いにしっかり結びつき共鳴する、ここに「小規模・分散」の田舎が見直される理由があるのだろうと言われています。

まさに地域生活を支える生協運動の役割はますます重要なものになっています。大いなるご活躍を期待しご挨拶とします。

新年のご挨拶



日本生活協同組合連合会
会長

浅田 克己

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の役職員の皆様が、組合員のくらしを支えるために日々奮闘されておられることに、心より敬意を表します。

昨年は4月に、1997年以来17年ぶりとなる消費税の増税がありました。その影響は大きく、国内総生産（GDP）は、4～6月期に年率換算で▲7.1%落ち込んだことにとどまらず、プラスになると予想されていた7～9月期でも、年率換算で▲1.6%とさらに悪化しました。これを受け、安倍首相は2015年10月に予定していた10%への消費税増税を1年半延期するとともに、衆議院の解散・総選挙が実施されるなど、経済面、政治面とも大きな課題を残す1年となりました。

組合員のくらしは、消費税増税だけでなく、電気料金の引き上げ、灯油の高騰、円安や原料高などによる食品の値上がりなど、以前にも増してきびしい状況が続いています。私たち生協はこうした現実にはしっかりと向かい合い、組合員のくらしを守るために活

動と事業を強めていかなければなりません。東日本大震災から4年経とうとしています。また、昨年は、夏の豪雨による広島での災害をはじめ、全国各地で自然災害による甚大な被害が発生しました。こうした災害に対し、貴会をはじめ全国の生協の皆様には被災地、被災者に寄り添い、力強く、そして温かい支援を継続して取り組んでいただきました。ありがとうございました。引き続き復興支援を重要課題とし、取り組んでまいります。皆様のご協力を、どうかよろしくお願いいたします。

この間、地域のくらしを支える活動は全国で熱心に取り組まれました。とくに昨年は、地方自治体と結ぶ地域見守り協定が飛躍的に広がりました。また、災害支援の協定や、配食事業、移動販売車の取り組みなどを通じて、地域とのつながりを深めつつあります。助け合いの組織として、地域社会を支え、地域コミュニティに参加する取り組みは、よりいっそう重要な活動となっています。

本年は、ラブコープキャンペーンの2年目にあたります。また、日本生協連は、6月より新たなCO・OP商品ブランドを展開します。全国の会員生協と一体となって、組合員参加の商品活動を広げ、あらためてコープ商品への結集を強め、商品一品一品の価値向上と、その価値を多くの組合員・職員に伝える取り組みを広げていきたいと思

います。最後になりますが、この1年が皆様にとって実り多い年になりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

3.11 を忘れない みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

スピードアップが求められる復興事業

誰もが経験したことのない甚大な被害をもたらした東日本大震災。行政も、地域の再生・復興のために懸命な努力をしています。今回は、気仙沼市震災復興・企画部の鈴木忠春課長に復興の進捗状況についてお話を伺いました。

小山のような盛土の間をダンプが往来し、重機が動き回っています。浸水した土地を再び生活や仕事の場にするための嵩上げ工事です。高台では山を切り崩して宅地造成工事が進みます。インフラ整備を経て、家や店舗・工場を建てるのはさらにその先になります。

約9,500世帯が被災した気仙沼市では、住宅再建の復興事業に加速がついています。「入札や他の事業との関係で多少の遅れが出ているところはありますが、おおむね予定通りに進んでいます」と鈴木課長が進捗状況を説明してくれました。「ただ、ここに至るまで時間がかかっていますから、被災された皆さんは、今か今かと待ち望んでいるわけです。毎日のように防災集団移転の造成地を見に来て、「今日は重機が何台動いているね」と話していく人もいます。そんな話を聞くと、我々の仕事の段取りが悪くて遅れることだけではないように、と思いますね」。



▲広大な土地の嵩上げ光景を見ると、震災で失われたものの大きさが分かる。水産加工施設の集積が計画されている南気仙沼

被災自治体の職員の多くがそうであるように、鈴木課長も被災者の一人です。住民と気持ちを共にしながら、今後も復興事業を担う強い想いを感じました。

「平成27年度までが集中復興期間とされているのですが、復興事業はこれからも続きます。国には集中復興期間を延長したり、28年度以降も潤沢な予算を確保してほしいと要望を出しています」。

道半ばの復興事業。予算と人材の集中で加速させていくことが求められています。

新年のごあいさつ

協同組合・友誼団体代表のみなさま



岡山県農業協同組合
中央会会長

青江 伯夫

岡山県農業協同組合の会員・組合員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、JAグループの事業及び農業振興に格別のご理解、ご支援を賜り心より感謝を申し上げます。

さて、昨年、政府は成長戦略路線の中で「国内農業競争力強化」を図るため、農業・農協改革の推進を決定しました。この改革は、JAの歴史的な経緯や背景など、地域に果たしてきた役割が考慮されておらず、現場では不安が渦巻いています。

しかしながら、JAグループ岡山は、持続可能な農業と豊

新年明けましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の会員・組合員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、JAグループ岡山では、県民の皆様にも本県農畜産物・JAのファンになっていただくとともに、協同組合の役割をPRするため、RSKテレビで「笑味ちゃん天気予報」(月～金曜日、18時50分～19時)の放映を行っております。

このような活動に取り組みながら、本県の農林水産業の裾野を、これからも皆様と一緒に広げて参りたいと思っておりますので、共に協同組合運動の発展に向けて頑張ってお参りしましょう。

最後にになりましたが、今年一年が皆様にとりまして最良の年となりますよう、また皆様のご健勝をご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

かで暮らしやすい地域社会の実現をめざして、岡山県産農畜産物の販売振興、新たな担い手づくり、地産地消の推進、次代を担う子どもたちへの食農教育など、これからも農業を基軸とした協同組合活動に全力で取り組んで参る所存であります。

また、JAグループ岡山では、県民の皆様にも本県農畜産物・JAのファンになっていただくとともに、協同組合の役割をPRするため、RSKテレビで「笑味ちゃん天気予報」(月～金曜日、18時50分～19時)の放映を行っております。

このような活動に取り組みながら、本県の農林水産業の裾野を、これからも皆様と一緒に広げて参りたいと思っておりますので、共に協同組合運動の発展に向けて頑張ってお参りしましょう。

最後にになりましたが、今年一年が皆様にとりまして最良の年となりますよう、また皆様のご健勝をご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年明けましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の会員・組合員の皆様方には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

生活協同組合の皆様方には、安全で安心な商品・サービスの提供をはじめ、社会貢献や環境保全など様々な分野で活動され、消費者の権利の確立と暮らしの安全・安心につながる社会システムづくりをめざして努力されておられますことに対し、深く敬意を表する次第であります。

昨年を振り返りますと、記録的な豪雨による土砂災害のほか、自然災害が猛威をふるい、各地で多大な被害をもたらした一年でした。各地の早急な復興対策のほか、安心・安全な社会の構築に向けての取り組みが望まれるところです。

農林水産業は、食料や木材等、暮らしに欠くことができない最も基礎的なものを供給する機能に加え、県民が安心できる豊かな暮らしを守る基盤とし

て重要な役割を担っています。中でも森林は、木材生産、水資源のかん養、地球温暖化防止など、私たちの生活に欠かすことのできない様々な効用を与えてくれています。

我々森林組合系統といたしましては、県民の暮らしと健康を守る観点から、伐採後の再造林や災害に強い森林の整備等を推進することにより、健全な森林づくりを目指し、精一杯努力する所存であります。

最後になりましたが、皆様方の森林・林業へのより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、岡山県生活協同組合連合会の益々のご発展と組合員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。



岡山県森林組合連合会
代表理事会長

井手 紘一郎

農林水産業は、食料や木材等、暮らしに欠くことができない最も基礎的なものを供給する機能に加え、県民が安心できる豊かな暮らしを守る基盤とし

新年明けまして、おめでとうございます。

岡山県生協連の皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども岡山県労福協に対しまして、ご理解とご協力を頂き厚く感謝を申し上げます。

さて、2012年年末に続き、昨年末にも衆議院選挙が実施されました。安倍首相は、今回の解散総選挙を「アベノミクス解散」とし、解散の理由として消費税増税を1年半延期することについて、国民の信を問うたこととなりました。

選挙結果は与党の圧勝で定数の3分の2超となり、これからは与党で何でもできる体制になっています。その中で、相変わらず公共事業への大規模な財政投入や、法人税の減税など企業重視の「成長」戦略を進める一方、生活保護基準の引き下げ、さらには労働法制の規制緩和など新自由主義的性格がますます強まってくることが想定されます。このような政策は、不安定雇用労働者の増大、労働者間の分断、さらなる格差の拡大、世代間の貧困の連鎖の固定化、ひいては社会の底割れにつながるものが危惧されます。こうした状況の中、私たち勤労者・生活者を取り巻く環境は依然として厳しく、昨年、4月からの消費税増税が重くのしかかり、再増税が先送りされても、非常に厳しいと言わざるを得ません。

一方、東日本大震災から3年9か月が経過しましたが、被災地での復興・再

生は進まず、多くの人々が仮設住宅を含め避難生活を余儀なくされています。

この巨大地震、津波、原発事故、そして土砂災害などは社会・経済・政治の在り様、価値観を根底から問い直しています。私たちに「自然の前に科学技術は限界がある」「経済成長は人間の幸せのためにあり目的ではない」ということを突き付けました。他方、この危機の時に、人と人とのつながり、支え合い、助け合い、連帯が社会の基本であることを改めて実感させられました。

このことは、県労福協や県生協連の運動理念とも一致するものであり、その中で、県労福協も、県生協連と更に連携を強化し、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向けて運動を推進していく所存であります。

今後ともご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、県生協連の益々のご発展と、皆様方にとりまして最良の年になりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



(一社) 岡山県労働者福祉協議会
会長

石田 一

新年明けまして、おめでとうございます。

平素から岡山県生活協同組合連合会の皆様、地域に対してのおとりくみに対し心より敬意を表します。又岡山県婦人協議会にたいしましては、御理解とお支えを頂いております事、心より感謝申し上げます。

このところ異常気象による豪雨などの災害によって平和な日常生活が脅かされていますが、私共はどんな時代になろうとも原点にもどき、全国の会員や他団体の皆様と共に誰もが安心して生き生きと暮らせる平和で安心な地域社会の創造に日々取り組んで参っており

ます。「やっぱり婦人会、今こそ婦人会」の下に生活のあらゆる面に、及び一人一人が地域を担い、お互いに支え合いながら地域の課題を的確に捉え、微力ながら実践活動をさせて頂いております。

そしてこれまで以上に国際社会の一員として、見識を深めつつ一歩一歩と歩いて参ります。

終わりになりますが岡山県生活協同組合連合会様の、益々の御発展と、皆様方のご健勝を念じ、新年の御挨拶とさせていただきます。



岡山県漁業協同組合連合会
代表理事会長

奥野 雄二

する厳しい年となりました。

一方、水産物につきましては、6月12日に日本人の食生活に馴染みの深いニホンウナギが国際自然保護連合において「近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種」として「絶滅危惧IB類」に指定されるとともに、11月17日には太平洋クロマグロが「絶滅の危険が増大している種」として「絶

新年明けましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の会員組合及び組合員の皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は、円安や株価上昇によって、大手企業等での業績は大きく伸びましたが、農林水産業界では円安による燃料費の高騰や4月からの消費税8%によって、実質可処分所得が低下

減危惧種II類」に指定された他、国際司法裁判所による南極海での日本の調査捕鯨中止命令等、我が国の魚食文化に陰を落とした年でした。

こうした中、厳しい漁場環境が続く本県では、おかやまコープのご協力を頂きながら実施しているアマモ場の造成の他、海底・海浜清掃の実施とともに、資源管理や栽培漁業への取組を推進し、かつての美しく豊かな海を取り戻し、消費者の皆様方に安心・安全な水産物を持続的に提供してまいりますので、今年もこれまで同様、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお祈りいたします。

また、年頭にあたり、岡山県での協同組合連合会の連携・交流などの取り組み等を一層強化し、協同組合の社会的認知度を高めて行かなければならないと考えております。

最後になりましたが、生活者のだれもが安心して暮らせる地域社会の実現のため、貴連合会が相互扶助組織として益々ご活躍されますとともに、会員皆様方のご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



(一社) 岡山県婦人協議会
会長

土屋 紀子

副知事、議員、行政担当部署と懇談し

情報提供や意見交換を行いました。

●木幡副知事と懇談【2014年2月13日 県庁3階会議室】

行政からは、木幡副知事、折居課長、山下総括参事、奥村主任の4名に出席頂き、県生協連からは、会長、副会長、女性理事の6名が参加しました。生協連より、開催のお礼と県生協連の取り組み、全国の協定の締結状況などを報告し懇談に入りました。



副知事から、生協は県民生活のきめ細かいところまでやっている。阪神淡路大震災後の防災の全面見直しや見守りなども係ってきた。生協は地域の重要な担い手だと思っていることなどお話を頂きました。また、県との連携については現場レベルで良い関係を築きモデルとして広げていくことが必要であり、市町村を動かしていくことがスムーズにいくこと、透明性を確保してお互いの自主性の下で結びつくことが大切であることなど話されました。率直に意見交換をすることが出来たことや今後の行政との関係づくりについて理解が深まりました。



●くらし安全安心課との定期懇談会【2014年2月13日 岡山県庁丸の内会館4階会議室】

県民生活部くらし安全安心課から折居課長、山下総括参事、奥村主任の3名、県生協連からは、9名が参加しました。折居課長から生協の取り組みに対するお礼、県生協連の要望に対する回答が説明され、その後質疑と意見交換を行いました。

岡山県高齢者見守りネットワーク推進会議について、現状で開催はされていないこと、地域ネットワークを形成していく上で、既存組織を活用することも含めて、検討することの話がありました。

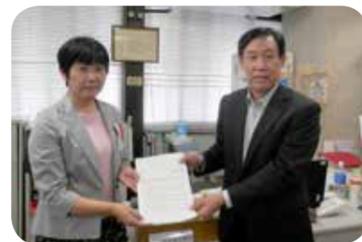
また、介護保険の分野は市町村の取り組みであり、県としては調整の範囲となること、消費生活、消費者教育の分野では、これから具体化をしていく段階であることのお返答が行われ、消費者被害が拡大する中、啓発のための協力依頼がありました。



●岡山県に要望書を提出【10月15日 県庁くらし安全安心課】

岡山県へ県生協連として要望書を提出しました。くらし安全安心課岡野課長、吉田総括参事、前田主任に対応いただき、県生協連近藤会長より説明と懇談を行いました。

今回の要望書は、項目として生協の育成・強化について、消費者行政について、食の安全・食育について、災害対策について、環境対策について、保健・医療・福祉・介護・少子化対策について、買い物弱者問題への対応について、産消提携・地産地消運動について、協同組合との連携の9項目28の要望内容となっています。要望に対する回答は2月に予定しています。



●介護保険制度改定に伴い岡山市、倉敷市、玉野市との懇談を実施

岡山市との懇談では、政令指定都市ということで、先行して検討されていると思っていましたが、2015年度1年間かけて作り上げていくとのことでした。倉敷市も同様で2月議会後に個別のスケジュールや項目が明確になるとのことでした。玉野市では、3月議会においてスケジュールを出し、実施時期は29年度からしか出来ないこと、社会資源の収集については県から出された資料に基づいて行っており、今は公民館などの活動が中心となっていることなど説明されました。サロンなどに対する補助が現在も行われており、岡山市や倉敷市よりも手厚い内容を実現していました。



●第26回 岡山県議会議員のみなさまとの懇談会を開催【11月28日 オルガ スカーレット】

12月議会開会初日、急な解散総選挙となり、当日多くの議員の方が出席できなくなりましたが、4会派7名の議員の方々に出席頂き、懇談会を実施致しました。県生協連からは12名が出席し、近藤会長からご出席頂いたことのお礼、今回のテーマ等にふれて挨拶を行い、その後各議員のみなさまから生協への思いや期待にふれられて挨拶を頂きました。

【出席頂いた県議会議員のみなさま】

- | | | |
|---------|---------|--------|
| 自由民主党 | 戸室敦雄議員 | 蓮岡靖之議員 |
| | 佐藤真治議員 | |
| 民主県民クラブ | 三原誠介議員 | 木口京子議員 |
| 公明党 | 笹井茂智議員 | |
| 日本共産党 | 氏平三穂子議員 | |



戸室議員



蓮岡議員



佐藤議員



三原議員



木口議員



笹井議員



氏平議員



その後、各生協が行っている「地域社会づくり」の具体的な取り組みについて紹介し、懇談を行いました。質問とともに期待なども含めた要望も数多く出され、会員生協から回答を行いながら深めていきました。人数が少なくなりましたが、懇談自体は活発な意見交換ができました。お忙しい中ご出席頂いた議員の皆さまに感謝致します。

《議員の皆さまから頂いたご意見や質問、励まし》

- 瀬戸内市との包括連携協定で、耕作放棄地の活用にあたっての条件や面積について
- 地域づくり協働基金についての仕組や活用について
- 地域づくりについて山も大変、危険を伴うため専門的なことが必要になるがそうした視点も考慮に
- 生活支援サービス 愛育委員やNPO、社協などと競合していくのでは、また組合員のみを対象として行われているのか、他団体との連携などの考え方は
- 中山間地 過疎地域での対応や行政からの支援、協定内容、地域の拠点づくりなどの考え方は
- 生協で良い取り組みを行っているがそれが伝わっているのか、相互に伝わるのがネットワークだと思う。
- 過疎地域 生協でできない場合 行政の支援が必要 そこがつながっていけば良いのでは
- 地域の中でお金を出さない。そのために地産地消の取り組みの拡大を
- 高齢者社会 今後どのような食材がニーズになっていくのか 配食サービスについて、弁当は飽きてくる。今後のあり方についての考え方。
- 山陽団地 店舗がなくなり、超党派で地域の問題について協議会をつくり検討している。生協の協力について。
- 地域づくりへの参加 包括連携協定 各自自治体に訪問し、ニーズが何なのかききながら、進めている。見守りの対象についての範囲や内容について 行政が手をまわらない範囲 地域の方の評価は
- 買い物難民問題 協定の中に含まれているのか 移動販売車の取り組みについて
- 組合員だけでなく、ひろく地域の方々に対してもサービスの提供を、また教育分野についての検討もして頂きたい

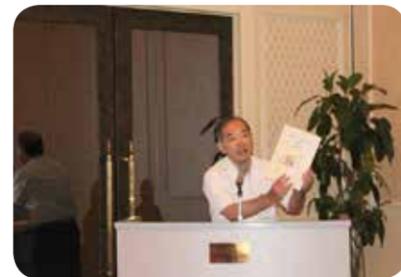
協同組合間の連携の取り組み

●第30回中四国生協・行政合同会議を鳥取で開催【9月4日 鳥取県】

『安心して暮らせる地域社会づくりへの参加と協同』をテーマに中四国生協・行政合同会議を開催しました。

鳥取県平井伸治知事より、生協は暮らしに係わる分野でそのネットワークが役立っている。森を守る活動への参加、中山間地見守り協定を締結するなど県とのパートナーシップの関係、配達活動の中で、お年寄りの異常を発見する例も出ている。生協が日々住民の方と接していることにメリットがあることなどにふれられ挨拶されました。

厚生労働省中国四国厚生局健康福祉部健康福祉課 高原伸幸課長より、広島市の土砂災害で協定による物資の提供や組合員訪問、現地対策本部への職員への派遣、住み慣れた地域で暮らし続ける社会、おかもコープの瀬戸内市との連携協定などの取り組みにふれられて挨拶が行われました。



・鳥取県生活環境部くらしの安心局藪田千登世局長より、婚活支援として2年間で2000人を達成したこと。住民主体で行うまちづくりを支援するため、「支え愛基金」25億を創設活用した取り組みや生き生きと暮らし安い「あいサポート運動」等について報告されました。

・「岡山県消費者教育推進計画について」岡山県くらし安全安心課吉田郁夫総括参事から消費者被害撲滅のための取り組みを進めていることや安心して暮らせる社会づくりに向け、「安全安心ネットワーク」の構築が求められ、生協の力が必要であること。岡山県消費者教育推進計画を策定し、それぞれのライフステージにおける消費者教育を進めていく。生協の見守りに対する期待、消費者被害に対して見守り力を高めることの報告が行われました。

・愛媛県内市町との見守りネットワーク締結について」愛媛県生協連より、愛媛県内における高齢者の現状や夕食宅配などの現況、見守り活動で実際にあった事例について、紹介され、1人暮らしの高齢者への対応が進んでいること等の報告がありました。今後の課題として、「徘徊者見守りネットワーク」との連携、買物困難者支援や高齢者の生きがいづくり等報告されました。



・「医療生協しんぶんの手配りで地域見守り活動」鳥取医療生活協同組合より、見守り協定を県と締結している。高齢化、少子化、人口減少の中、健康寿命を延ばす取り組みや、新聞の手配り、健康増進、協定に参加することの役割。「ひとりぼっちは命の危機」とし、全組合員の地域の見守り活動として進めていくことが報告されました。

分散会では、行政報告後「生協と行政で一緒に出来ること」をテーマに交流を行いました。これまでと違って、分散会形式で行われ、意見交換することが出来ました。

●消費者団体等との懇談会【2月5日 第二合同庁舎】

中国四国農政局主催で消費者7団体13名参加が参加して懇談会が開催されました。消費・安全部河口正紀部長から、時々のテーマにもとづいて、消費者の意見を聞く場として開催。今回は、攻めの農林水産業、6次産業化の推進についての意見を伺いたいとの挨拶が行われ、「攻めの農林水産業と6次産業化の推進の概要について」が報告されました。また、国内外の需要を取り込むための輸出促進、地産地消、食育等の推進や6次産業化等の推進、農業構造の改革と生産コストの削減を進めること、また食の安全・消費者の信頼を確保するための方策や食育を国民運動として展開していくこともあわせて説明され、消費者団体から意見を伝えました。



●岡山県 協同組合交流会2014「協同組合における地域づくり」を開催しました。

7月31日(木)岡山県協同組合連絡協議会(JA中央会、漁連、森連、生協連)が主催し、約90名の参加で協同組合交流会2014を開催しました。

JA岡山中央会青江会長から、これからの地域の在り方について協同組合で何ができるのか方向性を論議していく、農協は大きく変わる時機にきていることにふれて開会挨拶が行われました。

来賓として、岡山県農林水産部食農政策企画監 京博司氏から、晴れの国おかやま生き生きプランを策定したことにふれ挨拶が行われました。

続いて「協同組合における地域づくりの取組と連携 ～一人ひとりを大切にする社会の実現のために～」をテーマに、福井県立大学北川太一教授による記念講演を行いました。

2012年国際協同組合年の意義を踏まえ、私たちを取り巻く情勢として、市場原理主義を過度に信奉する動きや市場の失敗にふれ、協同組合の理念として、くらしを守ること、地域社会を事業や活動を通じてより良くすることについて、説明されました。

最後に、「協同組合間協同」への期待として、地域の資源を守り、つながりをつくる姿の見える化や農林業と食を育む地域を守る共通の理念づくりなどをあげられました。その後、県内の協同組合から豊かな取り組みの活動事例が発表されました。阿新農業協同組合「地域とともに『生きる・ふれあう・感動する』」岡山県漁業協同組合連合会「瀬戸内海に於ける岡山県漁業の現状」真庭森林組合「木質バイオマスへの取り組み」生活協同組合おかやまコープ「人と地域とくらしをつなぐ ～地域社会づくりへの参加の取り組み～」

最後に、岡山県生協連近藤会長より、協同組合規制の問題に対して自ら改革をしていくこと、1人ひとりが大切にされる社会の実現に向けて、さらに連携を強めることにふれて閉会の挨拶を行いました。講演や事例発表はとても参考になるものでした。

●「2014協同組合国際サミット」が、カナダ・ケベックで開催されました。

2014年10月6日～9日、カナダ・ケベックにて、カナダのデジャルダン金融協同組合と国際協同組合同盟(略称:ICA)の共催で、「協同組合の革新力」をテーマに「2014協同組合国際サミット」が開催されました。

サミットには、協同組合、政府関係者、経済界、国際機関、有識者など、カナダをはじめ93カ国から約3,000人が参加し、経済、金融、食糧、雇用などの分野で協同組合がどのように革新的な役割を担っていくかについて、各分野を代表する報告やパネルディスカッションが行われました。

初日の10月6日は、ノーベル経済学賞受賞者のR.シラー エール大学教授が、「ビジネス界と金融業界をより良い社会に向けて方向づける」と題した基調講演を行いました。翌7日は、世界的な食糧問題に関するパネルディスカッション「2050年までに90億人に食料を提供する」が行われ、パネリストとして日本生協連 浅田克己会長が参加しました。

浅田会長は、日本の生協の実践に基づき、食料生産と消費における消費者と生産者の協力や、廃棄食料の削減の重要性を訴えるとともに、食料危機、環境問題などの諸問題に関して日本の生協として、組合員と共に社会的な意識換気をいっそう行いたいと述べました。



基調講演をする
R. シラー エール大学教授



パネルディスカッションで発言する、
日本生協連 浅田克己会長(左から4人目)

会員生協の組合員、役員・職員が交流し、学びました。

●県連・会員生協役員研修交流会【1月10日 オルガホール】

県連会員生協役員研修交流会を57名の参加で行ないました。くらし安全安心課折居実課長より消費生活行政や県民生活の向上に向けた取り組みにふれられ挨拶を頂きました。

「生協運動のいま、そしてこれから」をテーマとして日本生協連浅田克己会長に講演を行って頂きました。賀川豊彦は「協同組合は、事業であると同時にたすけあいの組織であり、明日を拓く運動」としてとらえている。時代を超えて大切にすべきものとして紹介されました。また、震災支援活動では、厚生労働省がまとめた報告書に「機能しなくなった行政や地元組織を代替する主体の一つとして十分な資格と能力を有する」と評価されています。

12次中計の重点課題として、総合力の発揮、あたらしくつながりの強化、持続可能な経営体質づくりが必要なことなど説明され、あらためて生協組織としての在り方や理念、被災地支援の意味など学ぶことができました。

「山田方谷をたずねて」をテーマとして高梁方谷会石井保副会長より、備中松山藩 山田方谷の学問や家業、教育、藩政に携わってきた経過や内容、藩政改革について話をされるなど大変興味深いお話を頂き、基本の考えなど現代でも通じるものとして学ぶことが出来ました。



●被災地宮城県での研修【11月13日から15日】

岡山県生協連14名で、被災地の現状と宮城県の復興の取り組み、これからの課題、支援制度の拡充を求める背景について研修にお伺いしました。

最初に被害の大きかった名取市、関上地区を訪問しました。住宅の基礎だけがわずかに顔をのぞかせ、あたり一面は、雑草が茂った原野のような風景が広がっていました。名取地区を後にし、市内に入り災害公営住宅が建設されているところが、何か所もありました。宮城県で計画されている戸数は15561戸に対して着工が6822戸(44%)完了に至っては1526戸(10%)となっており、被災から3.8年が経過しているにも関わらず、この状況に愕然とする実態です。

みやぎ生協震災資料室を訪問し、住まいの問題やコミュニティの崩壊、水産業の販路の喪失と回復の遅れ、人口流失問題があることなど説明を受けました。

宮城県生協連から、公的支援の拡充や農漁業などの生業の再生のための支援、放射能汚染に対する対応を求める取り組みなどを進めていることやみやぎ生協大越専務からは震災直後の取り組みや対応、日本生協連及び全国の生協からの支援、みやぎ生協で行ってきた移動販売車の導入や津波記憶石建立の推進、地域の産業の復興に向けた取り組みとして仙台白菜の一括買い上げ、なたねプロジェクト、そばプロジェクトなどの取り組みについて報告頂き、地域とともに復興のための取り組みを進められていることを学びました。



日和山より、石巻日和地区を望む

●組合員活動交流集会【2月3日(月) 会場 オルガホール】



183名が参加し「安心して暮らせるまちづくり・健康づくり」をテーマに組合員活動交流集会を開催しました。

最初に「地域で生き生きと暮らすために 歩行寿命が延びる セーフティウォーキング」と題して、(医) 貴島会ダイナミックスポーツ医学研究所副所長土井龍雄さんに講演をして頂きました。

平均寿命と健康寿命(歩行寿命)が追いつかなくなっている中、セーフティウォーキングが必要となっていること、必要なストレッチ体操や筋力トレーニングについて、具体的にお話頂きました。筋力を鍛えることの必要性、股関節の鍛え方や足のマッサージの仕方など理解することが出来、ストレッチを実際に全員で行うなど、セーフティウォーキングの大切さを楽しく学びました。団体報告では、三井造船生協「夕食宅配事業の取り組みについて」と岡山医療生協「岡山医療生協オリジナル体操の取り組み」について報告されました。



●第2回 監事研修会【1月30日オルガ スカーレットA】

おかやまコープの赤坂常勤監事を講師として12名の参加で第2回監事研修会を「組合員の負託と監事の職責」をテーマに開催しました。改訂監事監査規則に基づき、条文ごとにポイントや意味することについて、生協監事監査ハンドブックを活用しながら確認されました。監事監査規則について、監査方針、監査計画の策定の大切さ、監事監査の実効性を確保する体制、監事会、監事会の付議事項、審議事項、決定事項など条文にもとづき説明されました。講義を聞いたあと、それぞれ重要と思ったポイントについて、グループワークを通じて共有化を行い、監事の役割や基本的なことが確認できる研修となりました。



●2014年度県生協連医療部会 高知医療研修【8月28日高知医療生協旧城北診療所】

生協連医療部会中心に8名で研修に伺いました。

組合員自らが運営する地域のおしゃべりひろば「きらり」。旧城北診療所を活用し週3回開催され、ボランティア組織16名で運営し財政も自立、月延200人が参加。ボランティアは交代制で無理のない範囲で参加し、健康づくり助成金を活用しています。当日は、うたごえを中心に行われていて、楽しい一時を過ごしていました。ボランティアも利用者の一人として楽しく参加しています。地域づくりの課題について、民生委員、社協との連携なども含めて支部レベルで意識的に取り組みが行われていること、サロンや見守りなど高知医療生協が進めている取り組みや「見守り協定」を締結したあとの具体的な地域の取り組みとして展開できていることなど、大変参考になるものでした。



石巻地区被災地視察 石巻の日和地区で、自宅もすべて流され、現在も応急仮設住宅に住まわれているみやぎ生協前理事大和さんから、現地の案内とお話を聞きました。日和地区は、すべて建物が流され更地の状態で雑草が一面をおおい茂っています。現在この場所には居住することは出来ず、公園になる予定とのことでした。

住まいの問題では、石巻での目標戸数4000戸に対して、216戸の着工に留まり、応急仮設住宅は老朽化、カビの発生、狭いなど問題を抱えている。一方集団移転で宅地の整備が行われても、新築する費用負担ができないため、仮設から出られない人が一定数あり土地契約が進んでいない問題も発生。公営住宅の完成の遅れもあり、抽選漏れで入れない方が多数存在していることなど課題が山積みとなっています。



説明される大和さん

石巻駅前・カフェバタフライにて、「みやぎ生協ボランティア活動と被災地の現状」について、みやぎ生協田中理事、須藤さんから説明されました。ボランティアの活動では、コミュニティの再生と孤立防止の取り組みとしてふれあい喫茶や子育て広場、仮設住宅でのイベントを開催していること、要望を行政に届ける活動では、仮設住宅で、お風呂の追い炊きが必要なことや二重窓にすることなど伝えて、改善されている部分もありました。

松島医療生協訪問・東松島地区被災地の視察 松島医療生協 青井専務から視察とお話を聞きました。

最初に被害の大きかった野蒜地区に訪問し、駅周辺も住宅密集地であったところが、現在は何も無い草原の状態となっていました。この辺りはもう住むことは出来ず、野蒜駅北側へ500メートル移動したところへつくる計画で工事が進んでいます。また、住宅地はさらに北側に造成工事が行われていたが、戻ってくるかどうかは未定との話でした。この地域の野蒜小学校の横の体育館は、避難場所に指定されていて震災の時も、福祉施設からここに避難してきたが、津波が押し寄せ、多くの方が犠牲になられたことなど、お話頂きました。また、震災後全日本民医連の支援活動として2000人を超える人の応援、3.5億の義捐金、薬や食料の支援を得て、14日から内科診療を開始し、15日からは避難所支援を開始し処方を行うなど、診療再開の歩みについて説明されました。あらためて医療や福祉事業に携わっている場合、自らの安全確保とともに患者や介護している方の安全と避難を行うことが同時求められ、そのことの大変さと難しさを教えられました。

全体として、特に住宅問題は深刻でした。仮設住宅で3.8年を過ごすことの大変さ、集団移転で土地を造成するも、不便なところで応募が少ない場所であったり、家を建てる資金がなく、応募できない人、公営住宅の建設の遅れにより抽選漏れで入居できない方や負担の問題、コミュニティの構築など新たな問題もあることが分かりました。引き続き支援が必要なことについて考えることができました。



野蒜小学校跡 現在は、荷物置き場としての利用にとどまり、その前に仮設の行政の施設が設置されている。

岡山県消団連、NPO消費者ネットおかやまとともに

●第28回岡山県消費者大会【10月31日オルガホール】

15団体171名の参加で第28回消費者大会を開催しました。近藤幸夫代表幹事より、消費者が大切にされる社会をめざして、各団体が取り組みを進めていること、今年度のテーマは「今の時代 大切にすべきこと」とし、情報をわかりやすく活用でき、作るのは私たち消費者であることなど開会挨拶が行われました。

『時代を読み解く』～マスメディアから見えてくるもの～をテーマとして、元NHKプロデューサーで武蔵大学教授永田浩三さんから講演をして頂きました。

母親の広島での被爆体験やベン・シャーンが描いている絵や家族との関わりについて話され、アメリカが核兵器の開発を進めているとき、核の情報をもらさないために愛国法を制定し公的機関から良心的な人が排除され、これに戦ったのがベン・シャーンであることが紹介されました。

テレビ特集で戦争をどうさばくかのテーマで「従軍慰安婦問題」を取り上げたとき、放送前日に修正を指示されたり街宣車での妨害や裁判まで行われたことなど自らの体験をもとにお話をされました。今、集団的自衛権の行使容認や秘密保護法、憲法の問題がいろいろとされているときに、様々な意見を伝えることが必要であり、民主主義のために頑張らなければならないこと、「私はこう思う」ということが言えることが民主主義であることなど話されました。「マスメディアの裏事情を少しお話していただけて『そうだったんだ！』と驚きと楽しくお話を聞かせて頂きました。自分の考えがきちんと言える世の中であってほしいと思いました。」などの感想が寄せられました。さまざまな視点から情報を読み解き、自らの意見を言うことが大切であることを学びました。

団体報告では、JA岡山県女性組織協議会『次世代につなぐ、私たちの取り組み』をテーマに食農教育として農業体験などの「めぐりスクール」、子どもを対象にした「ちゃぐりんフェスタ」の開催や日本型食生活継承運動としての料理教室などが報告されました。

津山医療生活協同組合から『ころばん体操に参加しての健康づくり』をテーマに、行政に協力して進めていることや班長会や食事会の取り組みの様子、絵手紙づくりや作品の展示会を行う中で、この地域でたすけあいこの地域でくらしたいと思うようになったことが報告されました。

生活協同組合おかやまコープ『人と地域とくらしをつなぐ～地域社会づくりへの参加の取り組み～』をテーマに、少子高齢化社会が進む中、生活支援サービスとして「はーとふるネットおかやま」を設立し身近な人の「困ったなあ」に応える取り組みとして進めていること。また他の生協や農協、社協など様々な団体との連携を行い、すみやすい社会づくりを進めていることの報告が行われました。

それぞれの団体の特長を生かした、安心して暮らすことができる社会の実現におけた取り組みを学ぶことが出来ました。大会宣言案を拍手で確認し、情報を読み解く力をもつこと、戦争のない社会、消費者主権にふれて閉会挨拶が行われ終了しました。



武蔵大学 教授 永田 浩三 先生



●消費者月間 講演会【6月7日 ビュアリティまきび】

食の偽装問題と食品表示法・景品表示法 ～消費者からみたメニュー、食品表示の見方と活用～ をテーマとして消費者月間講演会を13団体76名の参加で開催することが出来ました。

消費者庁食品表示の委員等をされているFOOCM.NETの森田満樹さんから講演をして頂きました。



講師 森田満樹さん

アクリフーズの件では、生協は公告ですぐに対応していたが、記号のみで製造会社が分からず回収が遅れた流通大手があったこと。「いわゆる健康食品」について、具体的に出せるのは特保だけ。一方政府の規制改革会議では、第3の健康食品をつくる方向で確認され検討している。

加工食品における義務表示や栄養表示はこれまで任意となっていたが、2020年までに義務表示となること。食品表示で禁止されている表示例をもとに、原産地の偽装表示、健康食品の不当表示、健康機器の不当表示や薬事法違反、メニュー表示の誤表示問題について、具体的な事例により解説して頂きました。

また、優良誤認、有利誤認の内容やガイドラインや違反行為に対する措置の説明が行われました。食品表示法は、わかりやすくするために策定され消費者庁のもとで執行体制や罰則は強化されました。難しい法律の問題もありましたが、大変わかりやすく、食品表示に関する具体的な事例をもとに話して頂き、とても勉強になりました。



●消費生活サポーター講座を開催

2014年度もサポーター講座を岡山県より消費者ネットおかやまが受託し、県下全域で展開しています。

予定会場は30会場となり、約800名の受講が見込まれ、消費者被害が後を絶たない中、最新の事例なども紹介しながら高齢者などが被害にあわないために地域での声掛けなどを担う消費生活サポーターとして養成しています。



●消費者被害撲滅キャンペーン【5月6日カンコースタジアム前】

行政から9名、消費者団体から10名の参加で消費者被害撲滅の宣伝活動を実施し、5000個の宣伝グッズを配布しました。

消団連2名、消費者ネットおかやまからは河田理事長含む6名が参加して、消費者被害撲滅にむけての協力をお願いする声掛けとキャンペーングッズの配布おこないました。当日は、うらっち、ももっちも参加してキャンペーンを行いました。



●NPO法人消費者ネットおかやま 適格消費者団体をめざして

消費者ネットおかやまが設立されて8年目になります。この間消費者被害の撲滅にむけて、講演会や消費者被害なんでも相談会の開催、キャンペーンへの参加など行ってきました。また、専門家による検討委員会が昨年より再開し、事業者の不当な条項や行為、宣伝物等に対して、改善のための申入れ活動を行い、一定の成果も生まれています。2015年はいよいよ適格消費者団体として認定を受けるための申請を準備しています。認定されれば、より一層多数の消費者の利益を守るための活動が担えることになります。



会員生協トピックス

岡山県労済生協

＜2014年秋に2カ所出張保障相談窓口を開設しました。＞

1. 2014年10月4日（土）・5日（日）

OHK（岡山放送）主催「おかやま元気まつり2014年」へブース出展しました。



2. 2014年10月25日（土）
イトーヨーカドー岡山店



＜2014年秋の防災体験プログラムの実施＞

1. 2014年10月23日（木）：遍照保育園（倉敷市）
2. 2014年11月12日（水）：昭和保育園（倉敷市）
3. 2014年11月26日（水）：連島東保育園（倉敷市）、山田中学校（玉野市）

岡山大学生協

＜永久健康祭（とわけん）2014！の対応＞



岡山大学生協では毎年11月に組合員利用還元企画の「生協キャンペーン」を実施しています。

その中の企画の一つとして、岡大生協学生委員会が主催する「永久健康祭（とわけん）2014！」が11月18日～19日の二日間で行われました。この健康企画の趣旨としては、岡山大学安全衛生部の職員さんによる禁煙相談、また気軽に参加してもらえる健康チェック（肌年齢測定・疲労度チェック・血

圧測定・体脂肪測定・アルコールパッチテスト）などを実施することで、組合員自らの健康に対する意識を高めてもらうきっかけづくりを目的としています。



岡山県学校生協

＜学校出前授業『南極クラス』も4年目を迎えました＞

2011年12月に教職員を対象にスタートした「南極セミナー」も今年で4年目、9月には21回目の開催を迎え、これまでに

出前11校 1,439名、フリー塾287名、セミナー 136名 計1,862名の参加がありました。

現在は出前授業『南極クラス』として内容も充実、「本物が体験できる！」授業として先生や子どもたちから大変好評。生徒10人の島の学校の開催では自然児の活発な質問攻めに、スタッフも子どもたちに元気をいっぱいもらって帰りました（笑）

何といても子どもたちの関心の的は、約2万年前の南極の氷が解けるときの「シュワシュワッ」という音が聞こえる感動の

体験タイム。「わぁスゴイ！南極に行ってみよう！」と歓声が上がります。おかげさまで岡山県学校生協の出前授業が岡山モデルとして全国に波及、各地の教育団体、学校生協が主催者となり、協力：国立極地研究所、協賛：ミサワホームで開催するこの出前活動が「教育支援プログラム」として評価いただき、経済産業省が後援する2013年度のキッズデザイン賞を受賞しました。2015年1月には笠岡市の新吉中学校、来年の夏休みの支援企画としての相談もいただいています。子どもたちが「本物を体験」することで、将来に明るい希望と夢をもって元気に成長できるきっかけになれるよう、引き続き支援活動をつづけてまいります。



おかやまコープ

＜行政との連携を進めています＞

おかやまコープでは、安心して暮らせる地域づくりを目指し、行政・地域の諸団体との連携を図るため、行政訪問等を積極的に行ない、県や市町村との協定締結を進めています。

14年度はこれまでに、ひとり暮らしの高齢者宅などで異常を発見した場合に通報を行なうなどの見守り活動をする「地域見守り協定」を岡山市など3市1町と、大規模な自然災害が発生した時に要請に応じて物資の調達・輸送を行なう「災害時物資協定」を美作市など3市1町と締結しました。



岡山市と地域見守り協定を締結
（右から二人目が大森市長）

【協定締結状況（12月末現在）】

包括連携協定…瀬戸内市
地域見守り協定…岡山市、笠岡市、総社市、瀬戸内市、早島町
災害時物資協定…岡山県、岡山市、倉敷市、津山市、笠岡市、総社市、瀬戸内市、赤磐市、美作市、早島町



笠岡市・笠岡市社会福祉協議会との三者で
地域見守り協定を締結
（右から平田理事長、三島市長、高橋会長）

＜太陽光発電をスタートしました＞

おかやまコープは、日本生協連の「エネルギー政策の転換」を目指す活動に賛同し、再生可能エネルギーの地産地消と節電、温室効果ガス排出量削減を目的に、太陽光発電をスタートしました。

11月17日、おかやまコープ藤田本部（岡山市南区）において「藤田本部太陽光発電所」開所式を執り行いました。岡山市内ではトップクラスの規模となる「藤田本部太陽光発電所」の他、店舗の改装に合わせ、9月にコープ倉敷北、11月にコープ西大寺でも太陽光発電を開始しています。3つの発電所の合計出力は約1,316kwです。



地域の方や関係者をお招きしてテープカット



藤田本部太陽光発電所

三井造船生協

＜「青い羽根募金」協力で表彰＞

11月25日（火）産業振興ビルにて、「青い羽根募金」活動の貢献に対する表彰贈呈式があり、武部理事長が出席し日本水難救助会より感謝状を頂きました。

三井生協では、「青い羽根募金支援自動販売機」を本部店に設置し、その売上げ一部を海難救助ボランティアの活動費に充てる「青い羽根募金」に毎年寄付しています。今後も皆様のご協力のもと、この募金活動を続けてまいります。



＜家庭会チャリティバザー収益金を玉野市へ寄付＞

12月3日（水）、三井生協家庭会は、チャリティバザーの収益329,627円を玉野市へ寄付しました。家庭会毛利静江会長、和田睦子副会長、長谷川節子副会長、三井生協武部吉治理事長が出席し、黒田玉野市長へ収益金を手渡したあと、家庭会の活動や生協の事業について懇談しました。

なお、収益金は玉野総合福祉センターのリハビリ器具とマッサージチェアの購入費に使われる予定です。



津山医療生協

＜東部支部結成＞

津山市東部に支部が誕生しました。3つの中学校区をもつ地域です。地域包括ケアで地域での健康づくり、助け合いが言われています。支部結成でさらに活動の輪が広がるといいます。

＜健康集会＞

10年前から12月に行われている健康をテーマにした集会です。

今回は平福診療所の垣内所長が先月福島医療生協の医療支援に行った事を中心に災害支援・原発・安全性などについてお話がありました。



グリーンコープ生協おかやま

2014年度も地区の組合員が主体となった様々な催しを行い、地域に根ざした組合員活動を充実させてきました。その活動の中で、今年度は、土曜日・日曜日の開催の数も増えました。『グリーンコープの企画（催し）に興味はあっても平日は仕事の都合などでなかなか参加することができない』、そんな組合員も多く、土曜日・日曜日の開催は好評でした。組合員主体となり自分たちで考え、楽しく企画をすることで活動の幅も広がり、「活動する組合員の仲間づくり」が進んでいます。



岡山医療生協



岡山医療生協では毎年、2月に「虹のバレンタイン行動」に取り組んでまいりましたが、2014年度は「いのち輝け、虹のアクション行動」として11月29日に取り組みました。約300人の組合員、役員、他団体の方々で集会とパレード。「憲法と国民の生活を守ろう」「国保料金を値下げしよう」「消費税を上げるな」「原発をなくせ」などアピールしました。

また、新たに「子育てふれあい快食会」で子育てママを応援しています。「いつもは子どもと2人で食べるのでみんなで食べると楽しい」「子どもが家で食べるよりよく食べてくれる」「この料理のレシピを教えてください」と会を重ねることに輪が広がっています。



倉敷医療生協 <玉島協同病院がオープン>

2014年12月1日、移転工事をすすめていた玉島協同病院がオープンしました。明るく、機能的な施設となり、あらたに透析医療も開始しました。1階のエレベーターホールには、地域のみなさまや幼稚園児・小中学生と協同で作成したオブジェも掲げられています。オープンに先立つ11月16日には、新病院駐車場を会場に1500人が参加した盛大な「玉島健康まつり」が開催され、新病院を祝いあいました。



会員紹介 (設立期順)

岡山県学校生活協同組合

代表者名 理事長
梶原 洋一
組合員数 17,850人
出資金 155,036千円
供給高 872,280千円
活動エリア 岡山県下、保・幼・小・中・高校・大学職域（県下全域）



設立登記年月日 1949年8月22日
役員数 (常勤) 2人 (非常勤) 16人 (監事) 3人
職員数 (正規) 7人 (内1人出向) (パート) 1人
概略

岡山県学校生活協同組合は、県下公私立の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校等・大学、教育庁関係職場に勤務される方とその職場を退職された教職員を対象とした職域生協で、組合員より拠出された出資金により運営される事業体です。

学校生協は、1949年に発足以来、組合員の皆さまとともに幾多の困難を乗り越えながら、今日まで発展してきました。今、私たちを取り巻く状況は、行先不透明で不安をかかえたまま推移しています。こういう時だからこそ「平和や暮らしを守る生協運動」の果たす役割がますます大切になってきています。今後とも、学校生協事業を魅力あるものに変革しながら、生協本来の活動に邁進し、組合員の福利厚生を担う事業体として更に活動を続けてまいります。

三井造船生活協同組合

代表者名 理事長
武部 吉治
組合員数 25,479人
出資金 541,299千円
供給高 4,543,192千円
活動エリア 玉野市、岡山市、倉敷市



設立登記年月日 1950年11月
職員数 (正規) 111人 (2013年度末)
(定時) 66人 (2013年度末)

概略
創立以来『人と人のつながりを大切に、健康で心豊かなくらしの実現を目指します』の理念のもと、現在では職域ばかりでなく、地域組合員のくらしを支える共同相互組織として、店舗（玉野市内に5店舗）及び共同購入での供給事業や、葬祭事業、福祉介護事業、旅行業、共済事業など幅広く展開しています。

また、組合員活動では1956年に結成した家庭会（地域組合員組織）を中心として環境問題や福祉活動その他安全な商品の提供にも積極的に取り組んでいます。中でも家庭会チャリティーバザーは第1回目の1979年から連続36年間、毎年その収益金を玉野市の社会福祉事業へ寄贈（累計で1,726万円）など、まさに地域社会にしっかりと根ざした活動となっています。

これら、事業及び組合員活動の歴史を礎に、組合員による・組合員のための生協、安心・安全をキーワードとした生協、また、人と環境にやさしい地域社会づくりに貢献できる生協をめざします。

くらしの中に、そして地域の中に生協がある。
～こういう生協をめざして～

岡山医療生活協同組合

代表者名 理事長
吉崎 振起
組合員数 64,031人
出資金 1,840,023千円
供給高 7,760,537千円
活動エリア 岡山県下一円



設立登記年月日 1952年10月21日
役員数 (常勤) 9人 (非常勤) 24人 (監事) 5人
職員数 (正規) 662人 (定時) 281人

岡山医療生協は、いのちと心大切にします。

1952年に設立された当組合は、現在2つの病院、4つの診療所、11の介護事業所、健診センターで構成され、健診から急性期医療～在宅まで、地域の皆さまの様々な要望にお応えしています。

当組合では、設立当初より「いのちの平等」を掲げ、人権を大切に医療・介護をすすめています。そのため、入院時も部屋代（室料差額）を頂かないことや、2012年1月には2つの病院で無料低額診療事業（患者さんの負担能力に応じて、窓口負担分を無料又は低額にする制度）を開始し、拡大する貧困への対応を強めています。

また、地域では安全・安心のまちづくりをめざし、健康づくりの他に安否確認を含む機関紙の手配り・配食弁当・誕生日訪問・サロン、子育て支援では岡山協立保育園等と連携し、赤ちゃんマッサージをはじめ子どもの成長に合わせた病院・診療所探検隊、夏休み宿題応援隊、高校生1日医療体験、若いお母さんを対象とした「ふれあい快食会」、母親学校など、世代を超えた多彩な企画に取り組んでいます。

これからも地域の様々な団体、岡山中央福祉会や他の医療機関・施設等との連携をすすめて、医療・介護・福祉と地域の組合員活動が一体となり、より良い地域社会の実現をめざしたいと思います。

倉敷医療生活協同組合

代表者名 代表理事 谷 謙一
組合員数 65,078人
出資金 1,663,868千円
供給高 101.4億円
活動エリア 岡山県全域



設立登記年月日 1955年2月28日
役員数 (常勤) 10人
(非常勤) 19人 (監事) 5人
職員数 (常勤) 815人 (定時) 456人

概略
倉敷医療生活協同組合は、センター病院の水島協同病院を中心に、全体で3病院、5医科診療所、7歯科診療所、3訪問看護ステーション、2ヘルパーステーションに加え、老健施設、倉敷市の高齢者支援センター、助産院など多彩な機能を持った30余の事業所を有して、医療・介護・福祉と健康づくりのネットワークを展開しています。

一昨年（創立60周年）、組合は将来を見据え、医療の質の更なる向上や災害にも強い安全・安心な事業所づくりを提起し、昨年は、玉島協同病院の高台への移転新築（14年12月）、水島協同病院非常用電気設備の増設・高架工事を完成させました。また、組合の設立趣旨、協同組合の原点や「組合理念」の「私たちの思い」を一言で表現した新しい標語（motto）を決定しました。

一人ひとりを大切にする社会実現のために
Each for All and All for Each

今年は、コープリハビリテーション病院・老健あかねの移転新築をすすめています。同時に、新規事業に必要な土地代相当の出資金結集をすすめます。

また、健康で明るいまちづくりをすすめるという医療生協の社会的役割が果たせる組織づくりの課題などにとりくみます。行政や地域の諸団体と協力し、組合員、地域住民の切実な思いに寄り添い、「人が人として大切にされる社会」をめざします。

会員紹介 (設立期順)

生活協同組合おかやまコープ

代表者名 理事長 平田 昌三
 組合員数 333,127 世帯
 (2014年11月末日現在)
 出資金 106.7 億円
 (2014年11月末日現在)
 総事業高 381 億円
 (2013年4月1日~2014年3月31日)
 活動エリア 岡山県一円 (定款エリア)
 設立登記年月日 1956年6月13日



役員数 (常勤理事) 4人 (非常勤) 14人
 (常勤監事) 1人 (監事) 4人
 職員数 (正規) 434人 (定時) 1,679人 (2014年11月末日現在)

概要
 おかやまコープは、岡山県内の4割を超える33万世帯が加入する県最大の消費者組織です。宅配と店舗での食品や日用品などを供給する購買事業を中心に、COOP 共済(たすけあい)などの共済事業、訪問介護やデイサービスなどの福祉事業を行っています。

品質マネジメントシステムの国際規格 ISO9001 を取得しています。また、商品トレサビリティの取り組みや「食の安全総合政策」の策定など、安全・安心な商品の提供や産直事業、地産地消の取り組みをすすめ、循環型農業を応援しています。

商品学習や産地交流などの商品活動やたべる・たいせつ活動、省エネ活動やリサイクル活動、マイバッグ運動などの環境の取り組み、核兵器と戦争のない世界をめざしての平和活動、ユニセフや AMDA への支援をすすめる国際協力支援活動、「子育てひろば」などの子育て応援活動やお互いさまの気持ちで支えあう「は〜とふるネット」の活動など、多彩な組合員活動にも取り組んでいます。

また、安心してくらす地域づくりを地域の皆さんとつながって一緒に幅広くすすめていこうと、くらしの困りごとの解決にお役立ちする「生活支援サービス」や里山・里海づくりの取組み、自治体との見守り協定や災害時物資協定の締結などをすすめています。

子会社のコープP&Sでは、旅行、飲食、葬祭や保険などの斡旋事業を行っています。また、子会社のコープファームおかやま、ハートコープおかやまを設立し、障がい者を雇ったトマト生産をすすめています。

ヤンマー農機製造岡山地区生活協同組合

代表者名 代表理事
 松原 敏行
 組合員数 374人
 出資金 374千円
 供給高 16,376千円
 活動エリア 職域(工場内)
 設立登記年月日



1965年1月25日
 役員数 (常勤) 0人 (非常勤) 8人
 職員数 (正規) 1人 (定時) 0人

概要
 当生協は新岡山港の近くの YANMAR 農業機械の総合機械メーカーとして 2013年4月に新たにスタートしたヤンマー農機製造内で活動しています。

組合員数約370名と限られた範囲での活動ですが、今年で51年目を迎え、より一層組合員のニーズを反映した活動ができるよう努力していきたいと思っています。

一年間を通じての地域の公園や遊歩道のクリーン作戦も回を重ね、これからも地域とのつながりを大切にしていきたいと思っています。

岡山県労働者共済生活協同組合

代表者名 理事長
 石田 一
 組合員数 17万5728人
 出資金 12億2567万9300円
 契約件数 7万7747件 (45万4890件)
 契約口数 34万7785口 (4964万7128口)
 給付件数 2,815件 (2万6415件)
 給付金総額 2029万0500円 (39億3887万6210円)
 活動エリア 岡山県一円



設立登記年月日 1961年4月1日
 役員数 (常勤) 2人 (非常勤) 26人
 職員数 1人 (25人) ※ ()内は連合会実績

概要
 岡山県労働者共済生活協同組合(全労済岡山県本部)は、営利を目的としない保障の生協として、岡山県と厚生労働省の認可を得て事業運営を行っています。

当生協は、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を理念とし、組合員の皆さまの「安心とゆとりある暮らし」をめざした活動を行っています。

これからも、「組合員の全労済」「正直な全労済」「努力の全労済」を信条とし、組合員のくらしを何よりも大切とし、組合員や地域社会からの信頼に応え、社会の発展のために行動し、たすけあいの心を大切にすることにより、全労済に関わるすべての人の満足に向け努力し続けます。

津山医療生活協同組合

代表者名 理事長
 井ノ上義明
 組合員数 5,614人
 出資金 85,992千円
 供給高 356,793千円
 活動エリア 定款区域
 (主には津山市と津山市周辺町村)



設立登記年月日 1980年8月12日
 役員数 (常勤) 1人 (非常勤) 17人 (監事) 4人
 職員数 (正規) 25人 (定時) 23人

概要
 津山医療生協は、患者・利用者の権利を尊重し、親切でやさしい医療・介護をこころがけ、地域の人達の命と健康を守るために全力を尽くしています。

高齢化社会が進み、医療や介護、暮らしをめぐる生活の環境が変わる中で、診療所・訪問看護ステーション・ケアプランセンター・ヘルパーステーション・デイサービスなど保健・医療・福祉(介護)のネットワークをひろげ、365日安心・安全の医療・介護サービスの充実と組合員との協同による健康づくり・まちづくりを進めています。

2013年4月施設の新築移転を行いました。新設の多目的ホールも好評で学習会や会議、サークル、集会等に使われています。

会員紹介 (設立期順)

岡山大学生生活協同組合

代表者名 理事長
 田口 勇仁
 組合員数 15,085人
 出資金 259,504千円
 供給高 2,084,006千円
 活動エリア 岡山大学津島・鹿田キャンパス



設立登記年月日 1995年2月20日
 役員数 (常勤) 2人 (非常勤) 28人 (監事) 4人
 職員数 (正規) 19人 (定時) 180人

概要
 岡山大学生生活協同組合は岡山大学の学生・教職員の手によって1994年12月に設立されました。

大学生協は、大学の福利厚生事業の担い手として、学生・教職員組合員に良い品をより安く、より便利に提供するとともに、教育・研究の場としての大学にふさわしい様々な活動を行っています。

岡山大学では、津島キャンパスのマスカットユニオン・ピーチユニオン・ピオネユニオン及び鹿田キャンパス医学部記念会館という大学の福利施設の中で、構成員のニーズにもとづいて、購買・書籍事業、旅行事業、食堂事業、共済事業、住生活支援事業など幅広い事業に取り組んでいます。

グリーンコープ生活協同組合おかやま

代表者名 理事長
 黒田 明穂
 組合員数 6,112人
 (2014年11月20日現在)
 出資金 211,565千円
 供給高 789,282千円
 (2014年3月20日現在)



活動エリア 岡山市・倉敷市・赤磐市・瀬戸内市・総社市及びその周辺地域(共同購入と個配事業)

設立登記年月日 2003年8月13日
 役員数 (常勤) 1人 (非常勤) 19人 (監事) 3人
 職員数 (職員) 18人 (定時職員) 17人

概要
 グリーンコープ生協おかやまは、安心・安全な食べものを求め、環境問題や地域福祉、平和の取り組みなどに関心ある消費者が集まり、2003年8月に設立しました。

無・減農薬で栽培された青果・農産物や遺伝子組み換えされていない飼料で育てた畜産物、なるべく添加物を使わずにつくった加工品など「いのちを育む食べもの」を、組合員に届けています。また、生産者やお取引先メーカーとの「顔の見える関係」を大切にすることで、組合員世帯の食の安全を守るとともに、国内の農畜産業を守っていく取り組みとして位置づけを進めています。

今の時代、経済と社会不安が大きくなっていく中で、一番大切な事は「信頼」です。組合員と地域の人々との「助け合っていく。支えあっていく。」をつくっていくことができる生協を目指して参ります。

県生協連会員生協名簿

会員生協名	住所	電話・FAX
岡山県学校生活協同組合	〒703-8258 岡山市中区西川原255	TEL 086-272-4033 FAX 086-272-4034
三井造船生活協同組合	〒706-8501 玉野市玉二丁目5-5	TEL 0863-31-5566 FAX 0863-31-7459
岡山医療生活協同組合	〒703-8288 岡山市中区赤坂本町2-20	TEL 086-271-0943 FAX 086-271-7854
倉敷医療生活協同組合	〒712-8025 倉敷市水島南春日町13-1	TEL 086-444-4321 FAX 086-448-4150
生活協同組合おかやまコープ	〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7	TEL 086-256-2511 FAX 086-256-2585
岡山県労働者共済生活協同組合	〒700-0024 岡山市北区駅元町6-26	TEL 086-254-2155 FAX 086-254-8116
ヤンマー農機製造岡山地区生活協同組合	〒702-8004 岡山市中区江並428	TEL 086-276-8111 FAX 086-276-8152
津山医療生活協同組合	〒708-0872 津山市平福546-1	TEL 0868-28-2057 FAX 0868-28-3835
岡山大学生生活協同組合	〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1	TEL 086-251-7207 FAX 086-256-0445
グリーンコープ生活協同組合おかやま	〒700-0973 岡山市北区下中野311-113	TEL 086-805-2566 FAX 086-805-2569



岡山県生活協同組合連合会紹介



概 況

1959年9月に創立総会を開催して設立された岡山県生協連は、当初17生協の参加でスタートしました。現在、10の会員生協に、延べ73万余世帯の組合員が加入する県内最大の消費者組織となっています。

購買生協は地域・職域の6生協、医療生協は3生協、それに労済生協とで構成されています。

生協は、県民の生活の安定と生活文化の向上に努めており、組合員のくらしと地域社会にとってなくてはならない存在となっています。

代表者名 会長理事 近藤 清志

会員数 10生協

会員総組合員数 732,397人 (2014.3.31)

会員総出資金 1,622,253万円 (2014.3.31)

会員総事業高 7,199,641万円 (2014.3.31)

設立登記年月日 1960年3月2日

役員数 (常勤理事) 1人

(理事) 13人

(監事) 3人

職員数 (定時) 1人

役員構成

会長理事	近藤 清志	(常勤)
副会長理事	平田 昌三	(生活協同組合おかやまコープ理事長)
副会長理事	武部 吉治	(三井造船生活協同組合理事長)
副会長理事	谷 謙一	(倉敷医療生活協同組合専務理事)
理事	大山 健二	(岡山大学生協同組合専務理事)
理事	加藤 孝昭	(岡山県学校生活協同組合専務理事)
理事	木村 高清	(岡山医療生活協同組合専務理事)
理事	児島 和則	(津山医療生活協同組合専務理事)
理事	佐々木和宏	(グリーンコープ生活協同組合おかやま専務理事)
理事	馬崎 健一	(岡山県労働者共済生活協同組合専務理事)
理事	和泉かよ子	(倉敷医療生活協同組合常務理事)
理事	田中 敦子	(生活協同組合おかやまコープ理事)
理事	藤原キヌ子	(三井造船生活協同組合理事)
監事	青井 昭洋	(岡山県労働者共済生活協同組合総務部部长)
監事	岡本 秀雄	(生活協同組合おかやまコープ常勤理事)
監事	河本志津恵	(岡山医療生活協同組合常任理事)
顧問	安場 靖	(前会長理事)